

第4分科会 生徒指導

研究課題 一人一人の人格を尊重し、社会的な資質や行動力を高める生徒指導の推進

趣 旨

現在の子どもたちは、情報通信手段に親しみ、社会参加に強い意欲を示す一方、家庭や地域社会での生活体験不足や社会風潮の影響などから、自立の遅れや忍耐力の欠如、さらには規範意識や社会性が低下していると言われている。これからの子どもたちには、激しく変化する社会情勢の中で、能力や個性を最大限に発揮し、自分の力で社会を切り拓いていくたくましさや身に付けることが求められている。

こうした状況の中、学校教育には、子どもの健全な発達を促し、自己実現を図るための自己指導能力を育成するとともに、将来への夢や希望をもって充実した学校生活を送れるよう、一人一人に応じたきめ細やかな教育を推進することが求められている。

子どもたち一人一人が自分の能力を十分に発揮し、満足した学校生活を送り、自己実現を図ることができるよう、学校の全教育活動を通して、子どもたち一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的な資質や行動力を高める積極的な生徒指導を、家庭・地域社会・関係諸機関と連携して総合的に推進することが必要とされている。

校長のリーダーシップのもと、生徒指導が全教育活動において「機能」として作用し、将来において一人一人の夢が実現できるような校内推進体制の在り方を明らかにする。また、保護者の価値観の多様化や子どもの生活圏の広域化などから、機動力のある対応・迅速な行動連携を図ることができる体制の構築に向け、具体的な方策について明らかにする。

研究の視点

1 生徒指導の機能を生かした教育活動の充実

学校においては、集団での活動や生活を基本としつつ、子どもたち一人一人が存在感をもち、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活を営むことが重要である。

そのため、助け合い、高め合える仲間づくりを通して、すべての子どもたちが、自己存在感や充実感をもち、健全な自尊感情を育てる学級・学校づくりを推進しなければならない。

そこで、全教職員の共通理解のもと、校内の生徒指導体制を見直し、生徒指導の機能を生かした教育活動を充実させるための校長としての役割や在り方を究明する。

2 家庭・地域社会・関係諸機関との連携

子どもたちの健全な成長を促し、将来にわたって自己実現を図っていくための自己指導能力を育成するためには、家庭・地域社会・関係諸機関との連携が不可欠である。また、いじめや不登校、非行などの問題行動や児童虐待等の諸問題は、学校だけでは解決できない大きな課題となっている。

そこで、子どもたち一人一人の実態に応じたきめ細やかな生徒指導を推進するため、家庭・地域社会・関係諸機関と連携した総合的な取り組みを推進するとともに、学校を中心とした連携システムの構築を図るための校長としての役割や在り方を究明する。